

# 山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

## -お知らせ-

来る7月末に、一泊二日の日程で恒例の第23回子ども禅の集いが行われます。対象は小学3年～6年生。いい修行になります。知り合いやご親戚などには是非一声お掛け下さい。



## じよやえ だいせつぶんえ 除夜会、大節分会報告

### 平成16年 龍源寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈祷
- 1/3～1/4 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 涅槃会
- ※3/14 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18～3/24 春彼岸会
- ※4/8 花祭り
- 4/29 大施食会蚕影山例祭法要
- 7/12～7/16 県外檀信徒棚経
- ※7/23～7/24 子ども禅の集い
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋彼岸会
- ※12/8 成道会
- ※12/31 除夜祭
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は本寺仁叟寺にて開催

今年も恒例行事になっております御本寺仁叟寺の除夜会(12/31～1/1)、大節分会(2/3)が世話人総代人はじめボランティアお手伝いの皆様方の協力のもと、ごんしゅう無事厳修することができました。年々盛会になっていく同行事ですが、今年はそれぞれおよそ2,000～3,000人ほどのにぎ参拝者の方々に賑わいました。

特に大節分会では、地元の代議士であるなかそねひろふみ中曽根弘文参議院議員のりんせき たまわ やく ほんご臨席も賜り、厄を払い福を呼ぶこの行事に参加して頂きました。

関係者各位に改めて厚く御礼申し上げる次第です。



↑上毛新聞(2/4号)記事より



→『福は内!』(大節分会)



←百八の煩惱を払う(除夜会)

こかげさんまえ

## 蚕影山前の整地作業及び産廃撤去作業の件

前号でもお伝えしたとおり、蚕影山前の整地じこう作業及びU字溝の撤去作業を今年度中にも行います。既に何回か総代役員会で話し合っており、4/29の檀信徒総会の了解を得た後に正式に着工に移ろうかと思っております。寄付金は集めずに行う予定ですが、できれば檀信徒の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

もし、U字溝を使いたい方(業者個人問わず)おられましたら、当寺までご一報ください。

また、併せて新墓地(龍源寺公園墓地)の整

さんはいてつきよ

備を行いま  
す。墓地の購  
入を考えてい  
る方がおられ  
ましたら、当  
寺までお気軽  
にご連絡下さ  
い。



さんじゅ

## 東堂夫婦傘寿御祝

たいとう

退董して以来あまり表舞台に出ていない仁叟寺東堂夫婦(龍源寺27世)ですが、昨年12月に東堂老師、今年3月に同妻テル女史がそれぞれ傘寿(80歳)を迎えられ、心身共にお元気であります。東堂老師は趣味の園芸に励みまた、仁叟寺史の編纂作業にも精力的に取り組んでおります。また、テがどうかいル女史は仁叟寺書道教室雅道会の先生だけでなく吉井町書道協会の会長としても活躍しております。

ご両名の益々の御活躍と御健康を祈念しております。



↑ 傘寿のお祝いの様子

## 龍源寺探索-6-

今回の探索では、龍源寺の開基もんなんろくざえもん門奈六左衛門を取り上げます。

門奈氏は江戸幕府の旗本で代々こうふきんばん甲府勤番(山梨県)を務めておりまし

た。所領は甲府以外に児玉(埼玉県)の一部とここ多胡(たご)一帯を治めていたそうです。現在の龍源寺より南に約500メートルほど行った所に元屋敷という地名が今でも残っておりますが、そこに門奈氏の出張所があったのではないかと考えられます。ただし、石高が少ないためか多

は考えられないかと思われ  
ます。

当寺は江戸初期の正保3年(1646)に仁叟寺の第九にっしゅうじゅさく世住職日洲壽朔大和尚を開山として建立されました。

伝聞では土砂崩れで廃墟となつたお寺を修復し現在の龍源寺となつたと言われ  
ております。

開基の門奈氏のその後については今まで不明でありまし  
たが、龍源寺のHPを見て、最近その末裔まつえいの方が連絡を下さ  
いました。東京在住の窪田広さんくぼたひろしという方です。龍源寺だけでなくこの地域一帯の歴史が少しでも解明されることを願っております。



↑ 門奈氏の末裔、窪田広氏

## 仁叟寺通信- 8 -



2月15日(日)に藤岡市の齋藤丈夫氏さいとうたけおが亡き妻千代子女史梅香ちよこ千芳大姉菩提提供養のために、村上鬼城村上 鬼城(※下記青字参照)の句碑を建立いたしました。石碑には『大寺や 松の木の間のしぐれづき 鬼城』と彫っております。この俳句は仁叟寺所蔵の掛軸に残っております。また、亡くなった千代子女史は27世渡辺隆司住職(現仁叟寺東堂)の実妹で、書道をはじめ俳句・短歌など多趣味な方でした。

村上鬼城。群馬の代表的近代俳人。本名莊太郎、1865年生、1938年没。正岡子規に教えを請い、やがて「ホトギス」同人と

↑文殊堂参道の一角にある村上鬼城句碑 なり、「境涯の俳人」と呼ばれる。

やまうちせいこ

## 山内清香女史内閣総理大臣賞受賞

今年1月31日から東京上野にある東京都美術館に於いて、第30回国際公募展連展が開催されました。その30周年の記念展の連展に於いて住職の叔母で高崎市向雲寺の寺やまうちせいこ族山内成子女史(雅号清香)が最優秀賞である内閣総理大臣賞を受賞いたしました。作品は書で『龍』という題。書での入選は珍しいとのこと。受賞作はフランスのルーブル美術館でも公開される予定です。

清香女史は現在、自坊の向雲寺で向雲書

道教室を主宰。藤岡女子高校で書道の講師も務めております。仁叟寺書道教室雅道会の手伝いもしていますので馴染みの多い方もいらっしゃるのではないのでしょうか？最近では、個展を開いたり海外展も行ったりと精力的に活動しております。

益々の御活躍を祈念申し上げます。



↑連展内閣総理大臣賞の賞状と記念盾

だいこうろだい

## 大香爐台の設置



←本堂前に設置された大香爐台

当寺本堂入口に大香爐台が設置されました。住職が御本寺仁叟寺の副住職も兼ねており留守が多いため、本尊様にお参りができないとの声がありました。この香爐台の設置により、御本尊様へのお参りができるのではないのでしょうか。

また、同台は、多胡の篠崎昭氏とその兄弟姉妹7人が亡き母親・寿光松栄大姉菩提提供養のためにと施主になり建立されました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### -施主名-

為 寿光松栄大姉菩提提供養  
 篠崎 昭 (多胡)  
 篠崎 誠 (小川町)  
 篠崎 優 (久喜市)  
 篠崎 孝好 (吉井川)  
 塩川美枝子 (藤岡市)  
 笹沢 玉江 (高崎市)  
 森平八千代 (甘楽町)

平成15年9月21日

## 平成15年度寄付者一覧 (敬称略)

為 佐藤家先祖代々供養  
佐藤春生(藤沢市)朱塗寺紋入八寸一對

為 碧山義賢信士菩提供養  
山田仁(東京)油絵50号2点

為 酒井家先祖代々供養  
多胡石材産業(株)(吉井川)蚕影山跡地石碑

為 常照院慈光富道居士菩提供養  
篠崎悦一(多胡)樺製バイ置

為 浄蓮美薫信女菩提供養  
小金澤弘(埼玉)本堂用真鍮製洒水器

為 梅山昭然居士菩提供養  
白田智志兄弟姉妹一同 本堂用銅製大香爐  
全 蚕影山用寺紋入縮緬幕

為 寿光松栄大姉菩提供養  
篠崎昭兄弟姉妹一同  
本堂前香爐台

(株)放光高崎営業所(高崎市)  
樺製蚕影山宮殿台座

光システムズ(株)(富岡市)  
庫裏電気工事一式

(株)吉井住設(下長根)  
庫裏排水溝工事一式

杉田彰(多胡)  
野菜・漬物沢山



↑本堂用銅製大香爐



↑朱塗寺紋入八寸一對



↑樺製バイ置



↑本堂用真鍮製洒水器



←樺製蚕山

宮殿台座



↑蚕影山用寺紋入縮緬幕

## -役員交代のお知らせ-

矢田地区の役員さんが交代いたします。木村照夫氏から木村重太郎氏に変更となりました。龍源寺こうりゅうの興隆のため、新役員さんは宜しくご尽力のほど、お願い申し上げます。

## 行雲流水 (編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

花が咲き若葉が映え、新しい命が芽吹く好季節となりました。龍源寺報『山雲水月』第9号春号、如何でしたでしょうか？

さて、個人的な話で恐縮ですが、このたび吉井町と高崎市の合併を実現する会の代表幹事を拝命いたしました。通勤通学などの生活圈を考え、またこれからの地域の発展を微力でも担う世代としては、高崎市との合併がベストであるとの判断をいたしました。

多種多様なご意見などあるかと思われ

ますが、住職としてでなく一町民としての活動であります。

いずれにせよ、長い目でもって次世代に恥じない判断選択をしたいものがあります。



満開の龍源寺桜